



中地区

平塚江南・平塚工科・平塚商業・平塚農業・平塚湘風
 大原・高浜・大磯・二宮・秦野・秦野総合・秦野曾屋
 伊志田・伊勢原

平成25年度 中地区大会

日 時	平成25年10月12日(土) 13:00~16:30
場 所	二宮町生涯学習センター(ラディアン)
出席数	312名
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ● 開会式 ● 研究発表 I 秦野曾屋高等学校PTA 研究テーマ 「PTAとしての顧客満足を追求する」 ● 研究発表 II 平塚農業高等学校PTA 研究テーマ 「仲間と笑顔! 食と農! あるでしょ!? 平農(ウチ)に!」 ● ふれあい教育保護者研修会(講演とライブ) 講演テーマ 「被災地での音楽活動を通じた支援活動について」 講師 フォークデュオ「ふたり」 小沼 卓郎氏、石崎 紀彦氏 ● ミニPPフォーラム 講演テーマ 「県立高等学校の生徒の携帯電話利用環境実態 及び保護者の意識調査の結果報告」 講師 反町 聡之校長 (平塚工科高等学校校長) ● 閉会式

<開会式の様子>



● 研究発表 I

秦野曾屋高等学校 P T A

研究テーマ 「P T Aとしての顧客満足を追求する」

内 容：秦野曾屋高校の概要

秦野曾屋高校 P T A の特長

- ・活動目標
- ・特徴的な活動
- ・目標の達成度

本校の P T A 活動の課題

- ・課題の抽出
- ・アプローチ
- ・成果と次なる課題

まとめ



【秦野曾屋高校の概要】

- ・設立：1987 年
- ・所在地：神奈川県秦野市曾屋 3613 番地の 1
- ・校訓：克己
- ・生徒数：791 名
- ・進路：大学 4 7 % 短大 1 3 % 専門学校 3 2 % 就職 1 % その他 7 %

【秦野曾屋高校 P T A の特徴】

秦野曾屋高校の P T A は、多くの保護者に「秦野曾屋高校で良かった」と思ってもらうことを、活動目標にしている。そのためには学校に来てもらう機会を増やすことが必要である。保護者の来校機会は、P T A 総会、体育祭、文化祭といった大きな学校行事のほか、P T A の各委員会による活動、講演会などがある。その他に本校の P T A は、保護者の来校機会を増やすために二つの独自の活動を行っている。

第 1 は「SOYA サプリ」という組織である。これは「一人一役一年一回」をキャッチフレーズに、平成 22 年に設立された。P T A 本部や各委員会の活動の補助が、その役割である。具体的活動には「ふれあい美化活動」や「体育祭補助」「花の水やり」「登校指導」などがある。

第 2 は「おやじの会」である。サプリも保護者の来校促進を目的に設立されたが、その主体はどうしても母親になりがちである。そこで、父親と学校の接点を増加させることを目的に、サプリの翌年、平成 23 年に設立された。こちらの活動の中心も美化活動であるが、サプリのそれと違い、高压洗浄機などの機械を使う、かなりハードな作業が中心となる。おそらく学校設立以来、手を付けられていなかったと思われる生徒昇降口の作り付けの椅子・テーブルを外しての清掃活動や、昇降口の塗装などもある。

現在、秦野曾屋高校では多くの保護者の来校が実現している。一例を示すと、体育祭時の来校者は、平成 24 年度は 270 家庭、平成 25 年度は 242 家庭であった。特に今年度は、雨による順延があり、予備日の開催であったにもかかわらず、これだけの保護者の来校があった。

また、文化祭では、来校者が多く、受付の列が校内から道路にはみ出すほどとなった。こうしたことから、SOYA サプリおよび、おやじの会の活動は、保護者の来校促進に貢献していると考えます。

【本校の PTA 活動の課題】

昨年度の会計を確認する中で、役員交通費が、PTA の総予算に占める割合が大きいのではないかと感じられた。その時点で、すべての PTA 役員のすべての活動に、実費で全額の交通費を支給していた。その他具体的課題として根拠のある予算組ができず、それによって過不足の可能性のあることや、会計の仕事量としての負担も大きい。そこで PTA 役員を対象に、交通費に関する考え方のアンケートを行った。その結果、現状のまま 39%、片道分 8% 定額制 32% 無しで良い 8% となった。最大値は現状のままだが、61%は何らかの削減に賛成である。結果として交通費は行動費という名目に代え、一回の活動につき 500 円を支払うこととした。予算/決算の差も少なくなり、計算の手間も軽減する。

またコメントに多く寄せられたものとして、役員決定の際、くじ引きで決められたのでせめて交通費くらいは出してほしいとの意見が大勢を占めた。そこで、役員決定方法も改定することが、交通費削減の理解に直結していると考えた。

そこで、同時に役員決定方法の改定も行うこととした。理想的には、PTA の活動を十分理解して、希望する委員会に手を挙げてもらうことである。そこで、「委員会活動の紹介」(楽しさ・やりがい・大変なところを委員会ごとにまとめたもの)と「年間行事予定」を合格者袋に入れて、希望があれば調査票に記入してもらうことにした。そして調査票をもとに、電話でアプローチを行い、それで決めきれなければ合格者説明会の時に決めることとした。

結果として、10 名以上の方を電話の段階で決めることができた。また断られた方でも、本当に真摯に検討していただき、秦野曾屋高校の保護者は大変真面目な方が多いことが実感できた。同時に、PTA の姿勢や考え方を、入学前に伝えることができた。

今後の課題は、「委員会活動の紹介」資料は、文字情報のみで、一見して「読みたい」と思えるものではないので、写真も多く入れた、見てわかるものに改善すること。また、それ以外にも、PTA 活動のやりがいや楽しさを伝える方法を模索していくことである。

【まとめ】

1. SOYA サプリやおやじの会は、保護者の来校を促進し、それによって秦野曾屋高校の良さを実感してもらうことに貢献している。
2. PTA 役員の選出方法も、新しい取り組みを導入し、納得できる仕組みづくりに取り組んでいる。
3. 上記 2 点により、保護者の顧客満足度は高めていると考えられる。

今後も、さまざまな取り組みを通じて、さらなる保護者の顧客満足度を高めるべく、チャレンジを続けていきたい。

●研究発表Ⅱ

平塚農業高等学校PTA

研究テーマ 「仲間と笑顔！食と農！あるでしょ！？平農（ウチ）に！」

平塚農業高等学校の歴史は古く、明治 19 年大住・洵綾・足柄上郡の三郡共立学校として、金目村宗信寺に開校したのが始まりです。明治 41 年に県に移管され、神奈川県立農業学校として現在の達上ヶ丘に開校しました。関東大震災による校舎建物倒壊大破を乗り越え、平成 20 年に県立百周年記念祝賀式を挙行し、記念碑を建立いたしました。今年で草創 127 年になります。また、平塚農業は県内で唯一分校がある高校です。昭和 25 年、三浦郡初声村に分校が開設されました。

本校では親子 2 代で平農という方も多く、現在の本部役員の中にも 2 名おります。このたびそのうちの 1 名は、親子三代平農一家であるということが判明し、一同驚きました。そんな平塚農業高校 PTA の活動を、1 年間の流れに沿って、紹介したいと思います。PTA の活動は、3 月に行われる「入学者説明会」の後の役員決めから始まります。笑顔で役員を引き受けてくれた仲間が今日この会場に集まってくれています。5 月には、学年委員による通学路指導があります。

6 月には、本校の大きな行事の一つである「体育祭」があります。体育祭は一般公開ではないのですが、保護者と未就学児童に限って見学することができるので、PTA 役員が受付を担当しています。ところが、案内の手紙が届いておらず、大きなお子さんを連れた保護者の方が来校されたり、他校の友人や卒業生が来校することがあり、毎年のようにトラブルが起きています。折角来校された方々をお断りするのは心苦しいのですが、先生方と協力しながらがんばっています。また広報委員会が、日中の暑さや土煙に負けず、生徒の熱戦の様子を取材しています。



7 月には、成人委員会が社会見学を実施しました。毎年体験などを組み込み、話題のスポット見学などを企画しています。今年は世界遺産に登録された雄大な富士山を眺めながら、ワイン工場を見学し、甲府まで足を延ばしてみました。参加された方はたくさんのお土産を買い、大満足で帰宅されました。

10 月は、学年委員会が自転車点検と通学路指導を行います。自転車点検は、各委員会の方にも手伝っていただき、約 400 台の自転車を点検し、ブレーキの故障や車体のゆがみなど不備がある点を紙に記入し、生徒に伝えるようにしています。

11 月には、本校のもう一つの大きな行事である「学校祭」があります。毎年 11 月の第 2 週の土曜日と日曜日に行われます。平農で収穫した野菜や加工品が販売されるため、一般の方がかなり早い時間から並んで、開始するのを待っておられるのには驚きます。PTA 役員が、ロープが張られた列で並んでいる方々の横を通ると、気のせいか殺気を感じます。販売が開始されると、人気商品はあっという間に売り切れてしまい、仕事があつて後で買おうと思っていると、買えなかったものもあります。



この学校祭で、PTA は模擬店に参加しており、去年は「さつまいもスティック」を販売しました。巨大なサツマイモをスティック状に切り、油で揚げたて塩を振り、紙コップに入れて販売しました。約 100 キロのサツマイモを約 40 名で軍手をして切るのですが、イモは固く切るのは大変でした。また運ぶのも、重労働

働です。太くて長いので、揚げるのにも時間がかかりました。でも、売り始めるとすぐに長い行列ができ、大好評でした。

さらに学校祭では、学年委員が、来場した方が購入した米・野菜・花などの荷物の一時預かりと、校内のパトロールを行っています。荷物はみな量が多く重いので、預かるのはとても大変です。広報委員は学校祭2日間の取材を行った後、委員全員で編集作業に取り掛かります。3月の広報紙発行まで、ほぼ毎週集まって作業を行います。

12月には、成人委員会主催の「体験教室」が行われます。本校の「体験教室」の特徴は、毎年各専門分野の先生方が講師を務めて下さることです。昨年は、「発酵食品」をテーマに、食品科学科の先生方にパンとキムチ作りを教えていただきました。本格的なキムチ作りをする機会はなかなかないので、参加された方には大好評でした。また、普段子供たちが授業で使用している器材や設備を使用させていただき、子供たちの学校生活を垣間見ることもできました。

最後に本部の活動を紹介させていただきます。

【PTA ふれあい畑】

本校では、教員・PTA 役員・会員の親睦をはかる為に、「PTA ふれあい畑」を作っています。農業高校ならではの特色を生かすためと本部役員に農家の方が多いということから始まったようです。昨年は、ジャガイモを栽培し、収穫の時にはご夫婦・兄弟・祖母・在校生など沢山の方々に来ていただきました。天候のせい、作物の出来はあまり良くありませんでしたが、「普段した事のない体験ができた」「初めて会う方々とも仲良くなれた」など、嬉しい声が聞かれました。



【分校との交流】

平塚農業高校には、三浦市初声町に分校があります。毎年夏休みに、交互に学校の視察をする交流会を行っています。昨年は、本校に分校の方々がいらして、校内視察をした後、カステラづくりを体験してもらいました。今年は分校に行き、コサージュ作りを体験しました。それぞれの学校の学校祭には、役員が視察に行き、交流を深めています。

【農業関係高校との交流】

県内には平塚農業高校、初声分校、中央農業高校、相原高校、吉田島総合高校という農業に関係する高校が5校あります。各校それぞれ地域性や特色のある学科などがあり、生徒たちは、毎日学習や実習に励んでいます。

私たちは、各校のPTA活動の参考とするべく、情報交換の場として一年に一度交流会を催しています。

以上、一年間の活動を振り返り、紹介させていただきました。今は秋、収穫の季節です。皆さんもこの機会に「食と農」を見つめ直し、日々笑顔で過ごされることを願って平塚農業高校の発表を終わらせていただきます。

●ふれあい教育保護者研修会（講演とライブ）

講演テーマ 「被災地での音楽活動を通じた支援活動について」

講師 フォークデュオ「ふたり」 小沼 卓郎氏、石崎 紀彦氏

＜講師「ふたり」のプロフィール＞

神奈川県二宮町出身で、中学校の同級生からなるフォークデュオです。2005年に結成し、2009年4月に「二宮町」でCDデビューしました。その活動が認められて、「ふたり」の地元である神奈川県二宮町から観光親善大使に任命されました。

2011年9月にリリースした「Small Cherry」は、東北自動車道の国見SA下り線で働く一人の女性を応援するため書き下ろした東日本応援ソングです。震災後も、積極的に福島県に足を運び、ライブを展開しました。現在は、年間に100本以上のライブを中心に精力的に活動中です。

＜講演とライブ＞

「風に吹かれて」という曲に始まり、何曲かを発表する中で福島県国見町の東北道国見SAの一職員から見せられた一冊のノートには震災での応援が綴られていた。これに感銘した二人は自分たちにできることはないかと考え、曲を聴いてもらったことに「前に進むしかない」という手紙をもらい、その後何回か現地で音楽活動をしていくうちに音楽が心に届くのだと感銘を受け、逆に励まされている自分たちに気づいたという、貴重な話を交えてのコンサートで会場は熱気に包まれた。



フィナーレは福島復興のために作ったという曲「Small Cherry」で、あっという間の一時間であった。

●ミニPPフォーラム

講演テーマ 「県立高等学校の生徒の携帯電話利用環境実態及び保護者の意識調査の結果報告」

講師 反町 聡之校長（平塚工科高等学校校長）

他の生徒の悪行や非行をサイトに投稿して「炎上」させる事案が急増しているとのこと。

急激なスマホ化も見られ、一日4時間以上の使用が28%もいる現状についてふれ、使用にあたって個人情報への保護についての意識のズレが保護者と生徒でかなりあることが調査で浮き彫りになったことが報告された。

最後に、人間同士の直接のコミュニケーションが最も大切であることが強調され、会場には静寂がただよった。

